

学習用情報端末を利用した学習について（案）

1 犬山の教育

めざす子ども像

⇒自ら学ぶ力を身につけた感性豊かな子ども

自ら学ぶ力を身につけた子どもとは、基礎的な学力を身につけ、家族や友達を大切に、地域を支え、自分の人生を大切にするとともに、生涯にわたって自ら学び続けようとする資質や能力を身につけた感性豊かな子どもです。

ICTを活用した授業づくり

GIGAスクール構想推進のために整備した、児童生徒の情報端末・大型提示装置・指導者用デジタル教科書の実効性を高めるために、昨年度に引き続き指導者研修会を実施します。変化の激しい時代を生きる子どもたちにとって欠かすことができない能力である、情報収集・活用能力や問題解決能力を児童生徒に養います。

「犬山の教育施策2022 学びの学校づくり」より

読解力の育成とICT

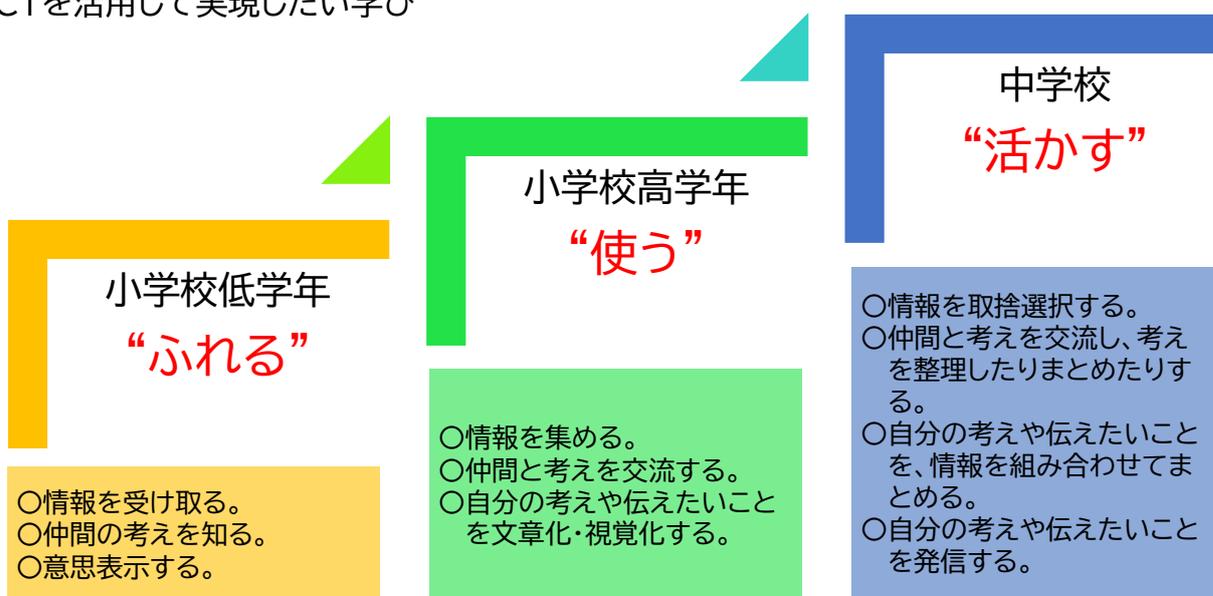
ICT機器の活用によって、子どもたちは、より多くの情報に触れられるようになります。すぐに答えを得られる世界というのは、実に便利です。しかし、生きていく上で私たちに立ちほだかる「問い」は、すぐに答えが得られないものや、答えがないものがあります。さらには、何が「問い」なのかさえ、どこにも示されていないのが現実の社会です。先の見えない時代を生きる子どもたちには、「問い」に対してじっくり考える力や、「問い」そのものを自ら見出す力の育成が求められます。それが、読解力です。

「犬山市読解力向上プログラム2021」より

*「犬山の読解力」を発揮して、情報のインプット・アウトプット、問題解決をする

*多様な情報の中で問題解決をする学びを通して、「犬山の読解力」が育つ

2 ICTを活用して実現したい学び



■義務教育の各段階において、具体的にどのような活用方法が考えられるか？

■教員には、どのようなスキルの習得が必要か？（令和4年度の研修計画の立案に向けて）